

「小さな水力発電」広げよう

小さな川で水車を回すなどして発電するマイクロ水力発電について考えようと、NPO法人中小企業サポート隊(事務局・八尾市)が28日、大阪市内で研究発表会を開く。都市近郊でも活用できる発電の仕組みや事例などを、専門家らが紹介する。

都市でも活用、きょう発表会

サポート隊は府内のものでつくりの中小事業者ら約20人でつくる。4年前、東日本大震災で原子力発電所が停止するなか、地域でできる小規模発電の仕組みに着目。専門家らと交え、身近な川や用水路などで小型の水車を使った発電実験を繰り返し、水流をエネルギーに変える機器開発などに取り組んできた。

研究発表会では、三宅宏司・武庫川女子大名誉教授が「大阪の水エネルギー 昔の利用から今後の活用へ」と題して講演。明治、大正時代にかけて府内に多くの水車が設けられ、その動力をもとに製菓や伸線業などが発展した経緯などを解説する。

また、青木豊明・関西外国語大教授が、びるの雨水を生かした発電実験と結果を発表。このほか、家庭の水道の蛇口に付けて発電できる機器のお披露目などもある。サポート隊の浜田典弥理事長(71)は「大阪の都市部にある様々な水力を活用すれば、電気が生み出せることをぜひ知ってほしい」と話す。

発表会は午後2時から、大阪市阿倍野区阿倍野筋3丁目の市立あべの市民学習センター(06・6634・7951)で。参加無料。定員100人。(大高司聡)